



第29号



聖ヨゼフ学園同窓会



ご挨拶

中学・高等学校 校長 多田 信哉

同窓生のみなさまごきげんよう。

平素より学園に並々ならぬご厚情を賜り深く感謝申し上げます。学園では4月に新入生を迎え2025年度が始まっています。今年の中学1年生は69回生赤バッチ、私が入職した時の中学1年生が39回生赤バッチでしたので、ちょうど30年たったことになります。その時すでにお勤めになられ、今もなおご奉職頂いている森田ゆかり先生、成瀬智先生、泉国寿先生、山崎由美子先生、佐藤陽子先生、吉野英男先生、吉野美子先生には本当に頭の下がる思いでいっぱいです。こうして考えると本当に多くの教職員の方々、生徒・保護者、そして同窓生のみなさまに支えられて今に続く学園があるのだと改めて感じます。



さて、そのような中・高の二大行事の一つ体育祭が5月に行われました。今年は6学年男女が揃い、新しい競技が増えました。それでも「二人でお食事」や「ちょっと拝借」など30年前以上から続く競技もあり、運動の得意不得意関係なく、誰もが活躍でき、誰もが楽しみにする体育祭は今も健在です。そして競技のみならず体育祭実行委員会を中心に各係に役割も誠実に取り組み、自分事として盛り上げる生徒の姿に変わりありません。もう一つの行事、ヨゼフ祭は9月に行われますが、是非多くの同窓生のみなさまにお越しいただき、その雄姿をご覧いただけますと嬉しく思います。

また、現在の中高での取り組みについて簡単に報告します。中高では2020年より「輝きプロジェクト」と題して、男女共学とIB教育プログラムMYPの試行授業を導入して参りました。前述したように全学年が共学となり、中学は男子72名、女子112名、高校は男子67名、女子115名、とあわせて男子139名、女子227名の366名が在学し、それぞれがお互いを認め合いながら活躍しております。また、後者においても試行錯誤しながらも歩みを進め、一昨年、IBO（国際バカロレア機構）よりMYP校としての承認をいただきました。こうした中、聖ヨゼフ学園のIB教育を学びたいと多くの学校が視察に訪れており、6月には遠く韓国からも教育庁の方とともに数校の先生方が来校されました。持っているものを出し合っけとともによりよい学びを創り上げていく、というIB校の一員としての役割を感じるとともに、落ち着いた生徒の様子にお褒めの言葉をいただくと、それだけで嬉しくなってしまう。

2028年に75周年を迎える聖ヨゼフ学園です。同窓生のみなさまと軌跡を振り返りながら、みなで一つになって新たな歴史を築いていきたいと考えております。今後も引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

十 学園よりご寄付のお願い 十

同窓生のみなさまからの寄付金を募集しております。

下記学園ホームページURLまたはQRコードよりアクセスしてご覧ください。

<https://www.st-joseph.ac.jp/charity/charity.php>

法人事務局長 伏島隆興



ヨゼフチャレンジ

小学校校長 清水勝幸

皆様ごきげんよう。

同窓会の皆様には、日ごろから聖ヨゼフ学園小学校の教育活動に、温かいご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。小学校は72年目の歴史を刻みながら、国際バカロレアPYPプログラム認定から8年目を迎えました。「信・望・愛」の建学の精神を大切にしながらも、グローバル化が急速に進む現代社会において、自らのタラントンを活かし、他者と共により平和な世界を築こうとする児童たちの活動を支えていきたいと考えています。今年度の学園の年間テーマは「希望による奉仕」です。学園に関わる全ての者が、希望のうちに支え合い、助け合って成長する学園となるようにとの思いからです。この学園のテーマを受けて小学校では、年間のテーマを「希望の力」としました。児童たちのさりげない言葉や行いが、誰かの希望になるということを自覚し、日々の学校生活をしっかりと歩んでほしいと願ったからです。このことは児童だけでなく私たち教職員も同様です。私たちが希望をもって生きることが、誰かの希望にもなるのです。



また、今年の新たな取り組みとして、「ヨゼフチャレンジ2025」に取り組んでおります。今の自分よりほんの少し成長できるようにと、児童、教職員一人ひとりが、一年間のチャレンジ目標を掲げ、頑張ることにしました。5月の締め切りまでに多くの皆さんがチャレンジ目標を提出してくれました。日々の勉強や仕事以外のことで、楽しく挑戦する、まさにPYPプログラムの「挑戦する人」の集団として、学校全体で取り組みたいと思いました。任意ではありますが、保護者の皆様にも参加を呼びかけましたところ、150人を超える保護者の皆様からチャレンジ目標の提出がありました。中には、小学校を卒業した在校生の兄弟からの参加もありました。自分で決めたチャレンジ目標は、責任を伴いながらも楽しく挑戦できます。途中変更、追加もありです。児童たちが楽しく頑張るとともに、楽しく挑戦する大人の背中を見せるのも、目的の一つです。来年は同窓会枠も設けるかもしれません。今年は入学試験も名称や形を変えました。地域に開かれた学園を目指してできる限りオープンにしていきたいと思います。

同窓会の皆様、学園に足を運んでいただき、授業などにご意見をいただけると幸いです。心よりお待ちしております。

ご挨拶

会長 袋 尚子(18回生)

同窓生の皆様、ごきげんよう。

この夏も厳しい暑さとなっております。同窓生の皆様におかれましては、益々のご活躍のこととお喜び申し上げます。日頃の同窓会活動にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

5月17日(土)、学園会議室にて2025年第59回総会を開催し、総会通知数4744名、出席者38名、委任状596名にて全ての議案をご承認いただきました。ありがとうございました。新たな一年間をスタートさせることができ、ここに『ひざし』第29号をお届けする準備が整いました。



活動としましては5月9日(金)に中学高等学校体育祭、6月7日(土)に小学校運動会を拝見いたしました。体育祭は中学1年生から高校3年生までの全学年が共学となり、まだまだあどけない可愛らしい中学1年生から教員か男子生徒か一瞬見間違えるほどの勇ましい姿の高校生を見ることができました。運動会は近年の課題である熱中症対策として、昼食前には全プログラムを終えることと、児童席を午前中比較的日陰になる校舎側へ、保護者席を国道側へ変更した2点がありました。

児童たちを強い陽射しから守るための対応が功を奏し、最後まで元気に身体をいっぱい動かしておりました。両日とも同窓会より創立70周年記念に贈呈しました学年カラーテントが大活躍でした。今後の予定としましては、9月27日(土)、28日(日)のヨゼフ祭に「同窓会の部屋」で参加させていただきます。同級生とお誘い合わせになられ卒業アルバムなどをご覧になりながら懐かしい思い出話をしにいらしてくださいませ。

同窓会では現在、1回生の82歳から69回生の12歳まで同窓会会員総数8200名、うちメールアドレス登録者数1900名を超えました。三代に及ぶ会員ファミリーもいらっしやり、よき学園の精神が継承されております。今後もこれからのSDGsに則した時代を生き抜くために、2020年より取り組んで参りましたホームページのリニューアルや『ひざし』のWeb化も進み、全てのやり取りがホームページにて可能になっております。メールアドレス登録がお済でない方はホームページより登録よろしくをお願いいたします。また、お名前、ご住所、メールアドレス等ご変更のご連絡もよろしくをお願いいたします。

最後になりましたが、今年度よりITシステムに詳しい53回生の役員が2名加わり、作業時間の短縮、効率化により新たに色々な事に挑戦しております。平均年齢も若返り、役員9名で活動してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

【重要】メールアドレス1本化のお知らせ

以前より使用しておりました dosokai@atonement.ed.jp は使用出来なくなりました。現在、joseph@stjdosokai.com に1本化しておりますので、受信設定をお願いいたします。

なお、会員登録内容にご変更がございましたら、同窓会ホームページ「住所変更・お問い合わせ」よりご連絡ください。



☆61回生 成人を祝う会☆



61回生の成人を祝う会がアトリウムで行われました。同窓会よりささやかなプレゼントを差し上げました。おめでとうございます。

63回生 同窓会入会挨拶

明日、私たち47名は、この聖ヨゼフ学園高等学校を卒業いたします。先生方をはじめ、たくさんの方々の支えによって楽しい学園生活を送ることができました。最後の女子学年ということもあり、文化祭や体育祭、部活で多くの苦労がありましたがその度に、赤バッチの団結力を活かし頑張ってきました。

同窓会の皆様、今まで陰で私たちを支え、あたたかく見守ってくださったことに感謝いたします。これから63回生、47名はそれぞれ違う道を歩むこととなりますが、聖ヨゼフ学園高等学校の卒業生、そして同窓会会員として学園に関わっていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。(福井紫乃)

同窓会1回生



1回生の皆様、同窓会のお写真を送付いただきありがとうございました。いつまでもお元気で
ご活躍ください。（同窓会役員）

同窓会6回生



令和6年12月1日、横浜元町にあるイタリア料理のカフェ・ボエムにて6回生のクラス会を開催した。今回も同期の長谷川耕造氏に大変お世話になった。心より感謝します。今回は、懐かしい先生方のリアル参加を企画し、6A担任だった金子(旧岡崎)翠先生と図工担当の大野(旧松下)訓子先生にお声掛けさせていただいた。大野先生は残念ながら都合が悪くなってしまったが、金子先生には元気な顔を見せていただき一同幸せな時間を過ごすことができた。先生を含めて15名の参加者と若干少なめであったが、ほぼ常連のメンバーのほか10年以上も会っていなかった男性クラスメートも参加してくれたこともあり、懐かしい時間を過ごすことができた。2次会は山下公園内のカフェテラスで暫し歓談して5時頃に散会となった。

本稿の最後に金子先生に教えていただいた言葉を記しておきたい。

「60過ぎたらキョウイク(今日行くところがある)とキョウヨウ(今日用事がある)が大事」この言葉を大切に次回のクラス会を元気に迎えたいと思う。(戸井啓夫)

同窓会16回生



皆様ごきげんよう。

前回の還暦同窓会より6年、コロナを経てようやく2025年5月17日、16回生同窓会開催の運びとなりました。会場は石川町駅からほど近い、アットホームなフレンチレストラン。同窓会に先がけ、今回どうしても参加することが出来なかった愛する友人お2人のご冥福をお祈りし、黙祷を捧げました。会場のどこかに仲良く2人で来ていると、多くの方が感じたのではないのでしょうか。

まず花言葉を添えたくじ引きで着席します。それぞれの席に置かれたご案内には、59年前の小学1年生の集合写真と校歌が。写真の中の自分が見つからない方も隣の席の方が見つけたりと微笑ましい光景と同時に当時の記憶が蘇ってきます。幼い写真に向かい「私たち60年頑張ってきたよ」と密かに声をかけました。近況報告では、まだまだ現役でご活躍されている方も肩の力が抜け、大人の余裕が漂っています。定年退職や孫、親の介護の話題など、時の流れを感じました。美味しいフレンチを頂きながら、楽しいお話に笑いや共感、和やかな会となりました。

集合時間には台風並みの雨風も止み、ほろ酔い気分で行き、2次会会場へ向かいます。2次会から参加の方と合流し、初めに懐かしい校歌を全員で歌い、その後はどんどんボルテージが上がり、パワー全開！最後は皆でサザンを大合唱。

我々も前期高齢者となり、「また元気で会いましょう」を合言葉に、1年後の再会を誓いました。皆の笑顔に触れ、時を超えて自然に語り合える心地良い感覚。改めて聖ヨゼフ学園を選んでくれた両親に感謝した幸せな1日でした。また元気で会いましょう！（村井美行）

同窓会26回生



『ごきげんよう』学園を卒業して数十年…。やはりこの挨拶から始まった同窓会。

久しぶりの集いという事もあり、なかなか皆さん全員にご連絡が行き渡らない中でしたが、2025年1月31日に品川プリンスホテルイースト館内のPIVOTにて総勢24名で開催致しました。最初は気恥ずかしいせいか…？男子と女子に分かれて座っていたものの、時が経つにつれて席も移動し懐かしい思い出話から近況報告まで話題の尽きず…。

途中の中締めはあったものの、多くの方々が閉店まで参加され賑やかな会となりました。次回の60歳の時にはもう少し趣向を凝らした同窓会ができれば…と考えております。その際は皆さま奮ってご参加頂きたいと思っております。末筆となりましたが、卒業して年月も経ち、住所が不明の方々も多くなってきましたので皆さま同士、相互連絡など取って頂き、繋がっていかれたらと思っております。ご協力をお願いいたします。（田邊美奈子）

4回生学校見学ツアー

2025年7月12日(土)、4回生の方々が多田校長のご案内のもと学校見学をされました。この後、皆様でのお食事会もご予約とのことでした。お写真のご提供ありがとうございます。またいつでも母校へ遊びにいらしてください。

(同窓会役員)



同窓生便り

「その一步が、未来の結末を変える」 53回生 竹内麻利菜

ごきげんよう。

私は53回生の緑バッチとしてヨゼフを卒業後、洗足学園音楽大学ミュージカルコースを経て、役者・パフォーマーとして活動しています。

現在は舞台やミュージカル、テーマパーク、TVなど、様々な媒体を通してハピネスを発信し続けています。ヨゼフで学んだ「信・望・愛」は、今でも私の大切な価値観です。お客様に愛や希望の灯を届けたいと願い、日々活動しています。現在は「没入型」を意味するイマーシブ・フォート東京に出演中です。イマーシブでは様々な場所で同時多発的に物語が展開します。好きな目線で作品を観たり、自らの選択で結末が変わることもあります。



多様性が尊重される令和の時代、エンタメも自由の幅が広がっていると感じます。ゲストの選択で公演が変わるように、自分の価値観を軸に行動すれば、人生の結末もいくらでも変えられると日々実感しています。これからも、自分だけの物語を恐れず楽しんで描こうと思います。

2025年3月8日(土)、高等学校の卒業式に参列致しました。

63回生は最後の女子のみの学年となります。創立からの女子教育の精神を閉じるにふさわしい心うたれる答辞を皆様にご紹介致します。

63回生答辞 井尻春花

冷たい風の中にも、柔らかな日差しが降り注ぐ、春の訪れが感じられる季節となりました。多くの人の温かさにつつまれ私たち63回生赤バッチは聖ヨゼフ学園を卒業します。

学園生活を振り返ってみると、私たち赤バッチは勝利にこだわってきたと思います。そんな私たちが夢中になった行事としてまず初めにあげられるのは、体育祭です。私たちは毎年、勝つことを目標に励み、どんなときも強気で負けず嫌いでした。しかし、そんな私たちも今年の体育祭は、女子も男子もいる他学年との力の差がとても不安でした。「最後であり唯一の女子学年」という言葉は私たちにとって誇りでもありましたが、同時に重荷でもありました。それでも、その重荷と不安を払拭し、私たちに自信を取り戻してくれたのは、お互いの応援であったように思います。本当に人数が少ないのかと疑ってしまうほど大きな声を張り上げ、お互いの背中を押し合う様子は、全員で勝利を貪欲に追い求めてきた私たちらしい姿でした。

私たち赤バッチが勝ちにこだわったのは競技だけではありません。私たちが毎年力を注いだものとして、学年演技は言うまでもないと思います。高校二年生の時の演技は、赤バッチらしい、力強くも繊細なものでした。「最高の学年演技だった」と自信をもって言えるのは、本気で取り組んだからこそだと思います。その本気度は、共有された90を超える練習動画や教室の壁一面に貼られた位置移動の紙が物語っていました。去年の自分たちを超えることを目標に臨んだ今年は、まだ演技も始まっていない内から涙がこみあげてきて、お互いに「まだ早いよ」と笑いあいました。私たちのたくさんの努力で作上げた演技をほめてほしくて、体育祭後は興奮しながら各授業で先生方に感想を求めたのもいい思い出です。

学園生活を振り返ってみると、私たち赤バッチは勝利にこだわってきたと思います。そんな私たちが夢中になった行事としてまず初

私たちににとってはヨゼフ祭も「楽しい行事」ではなく「勝負」でした。コロナ禍では動画作成しかできず、アトリウムにぽつんと置かれたテレビで動画が流れていた光景は、どこか寂しげでした。しかし、中学三年生からはコロナ禍でやりきれなかった分、全力を注ぎました。学年企画で二連覇を成し遂げ、集大成である高校二年生のヨゼフ祭に向け気合が入る中、知らされたのは学年企画がなくなるということでした。ヨゼフ祭が変わることもですが、他学年と戦うことができなくなることが何より悲しかったのを覚えています。部活や委員会などで例年より忙しくなることは分かっていたながらも、私たち赤バッチが勝負の舞台から降りるという選択はできませんでした。しかし、予想を上回る忙しさから準備は全く進まず、最後の準備の日の朝、乱雑とした試食室を見たときは絶望すら感じました。一心不乱に準備を進めると、当日にはすっかりお祭りの様子になり、忙しさを上回って達成感がこみあげてきました。自分たちの選択は間違っていなかった、これでこそ赤バッチだろうと心から思いました。

また、私たちの良さは今年のヨゼフ祭の準備でも発揮され、全員が廊下に並び、机運びをする姿は体育祭が行われているのかと思わせるほど全力で取り組んでいました。片付けでは、後輩に指示するだけのつもりで参加しましたが、気づけば後輩よりも前に立ち机や椅子を学校中に運んでいました。このように、私たちはどんなことにも本気になれるのです。

そして、本気を出すことをかっこわるいと否定せず、口癖のように「やるなら本気」と言っていました。どんなことにも本気なれる、本気で楽しめるという良さは、私たちの思い出の至る所に現れています。こうして赤バッチが学校生活で常に全力を出すことができたのは、私たちをいつも見守り、支えてくださった皆様のおかげです。

緑バッチの皆さん。勢いがあってしっかりものの皆さんが来年度からこの学園を引っ張る立場になります。目まぐるしく過ぎる毎日はとても大変だと思いますが、持ち前の団結力で乗り切ってほしいと思います。あなたがたの作るこの学園がよりよいものになることを心から願っています。

白バッチの皆さん。委員会や部活を中心に学園を引っ張ってきた今年度はとても大変だったと思います。とくに皆さんは初めての共学の代なので、私たち赤バッチからは想像もできないような苦勞がたくさんあったと思います。「最後の女子学年」の赤バッチと「初めての共学」の白バッチとでは、一年しか変わらないのにも関わらず、計り知れないほど大きな違いがあると思います。それでも、物怖じせず何事にも冷静に対応する皆さんは、私たちにとって油断できない相手であり、何度も私たちを熱くさせてくれました。

私たちにもいつも愛を注いでくださった先生方。一人ひとりに丁寧に与えてくださるその愛はまさに、この学園が大切にしている無償の愛そのものでした。一度自分たちで決めたことは決して曲げたくないという頑固な私たちは、本当にたくさんのご迷惑をおかけしたと思います。そんな私たちのために、たくさんのおアドバイスや工夫をしてくださったことには感謝してもしきれません。先生方は、良いものは良いと、だめなものにはだめと私たちの成長を思って素直に言うてくださいました。だからこそ、そんな先生方からの心からのほめ言葉が本当に大好きでした。今になって気づく先生方への感謝の思いは、言葉では言い尽くせないものです。

18年間、私たちを一番近くで見守ってくださった家族の皆様。あなた方が与えてくださったやさしさには、いつも遅れて気が付きます。いつもまともらない話を聞いてくれてありがとう。間違っているときは正してくれてありがとう。怖い時もあるけど、それでもずっと味方でいてくれてありがとう。きっと今もあなた方が注いでくださった愛すべてに気づけたわけではないと思います。今伝えられない分は、これからの人生をかけてゆっくり伝えていきます。立派な大人になりたいけれど、あなた方の助けがないと生きていけない私たちは、まだまだ未熟です。きっとこれからもたくさんの迷惑をかけてしまうと思います。それでもずっと、私たちを見守ってくださると嬉しいです。

そして何より、赤バッチのみんな。全員が本気で取り組むからこそ意見はなかなかまとまらないけど、一回決まったら妥協はしない。意地っ張りだけど頑張り屋で、めんどくさがり屋だけど負けず嫌い。一言では表すことができないけど、そんな赤バッチが大好きです。みんなとのたくさんの思い出を過去形でしか語れないことをただただ悲しく思います。ごきげんようと正門をくぐることも制服を着て教室に集まることも当たり前だったのに、もう戻ることはできないと分かったとたん寂しいです。今思えば、代り映えのしない毎日もかけがえのない愛しい思い出で、そんな思い出をここにみんなで作られて幸せでした。本当にたくさんの思い出をありがとう。

これから私たちはそれぞれ違う道を歩んでいきます。この学園で受けた愛を返してゆける人になります。私たち赤バッチにたくさんの愛を教えてくださった方々のご清福とこの学園のさらなる発展をお祈りして、答辞とさせていただきます。長い間、本当にありがとうございました。ごきげんよう。



卒業生進学実績

2024年度卒業生（63回生）大学合格実績

2024年度卒業生（69回生）進学先一覧

男子

学校名	人数
愛光中学校	1
浅野中学校	1
関東学院六浦中学校	1
攻玉社中学校	1
サレジオ学院中学校	3
静岡聖光学院中学校	1
星槎中学校	1
高輪中学校	1
武相中学校	1
森村学園中等部	1
山手学院中学校	2
横浜市立横浜サイエンスフロンティア 高等学校附属中学校	1
横浜創英中学校	1
立教池袋中学校	1
聖ヨゼフ学園中学校	12

女子

学校名	人数
香蘭女子中等科	1
サレジオ国際学園世田谷中学校	1
渋谷教育学園渋谷中学校	1
十文字中学校	1
女子学院中学校	1
田園調布学園中等部	1
横浜共立学園中学校	1
リンデンホールスクール中高学部	1
聖ヨゼフ学園中学校	20



学校名	計
青山学院大学	2
麻布大学	1
亜細亜大学	1
大妻女子大学	2
神奈川大学	2
関東学院大学	6
北里大学	1
共立女子大学	1
慶応義塾大学	3
國學院大学	1
駒澤大学	2
相模女子大学	2
三育学院大学	1
上智大学	5
昭和女子大学	3
昭和薬科大学	1
白百合女子大学	2
聖心女子大学	3
専修大学	1
大東文化大学	1
千葉工業大学	1
中央大学	1
帝京大学	1
帝京科学大学	1
帝京平成大学	1
東海大学	4
東京工芸大学	2
東京女子大学	2
東京造形大学	2
東北学院大学	1
東洋英和女学院大学	2
日本大学	4
日本歯科大学	1
日本女子大学	2
文学院大学	1
星薬科大学	1
武蔵大学	1
明治学院大学	2
目白大学	1
横浜薬科大学	2
女子美術大学 短期大学部	1
専門学校 日本デザイナー学院	1
帝京高等看護学院	1
計	77

【2025年度総会】

5月17日（土）会議室にて総会を開催いたしました。

多田中高校長、清水小学校校長、武田中高教頭、板倉小学校教頭をはじめ38名のご出席とインターネットでの委任をいただきました。昨年度の活動報告、会計報告等がありました。

次いで、各担当役員より本年度の活動計画案、実行予算案について説明があり、すべてご承認頂きました。ご協力ありがとうございました。

2024年度活動報告 (2024年4月～2025年3月)

- 4月 小学校、中学校入学式参列
- 5月 総会開催 中高体育祭参加
- 6月 小学校運動会参加 第1回チャイルドケア
- 7月 会報誌「ひざし」発行（Web公開）
- 9月 第2回チャイルドケア
ヨゼフ祭に参加「同窓会の部屋」
- 11月 小学校音楽会出席 追悼ミサに参列
- 12月 小中高にクリスマスプレゼント進呈
小学校クリスマスのつどい出席
- 1月 「成人を祝う会」にプレゼント進呈
勝野巖神父様追悼ミサ参列
- 3月 小学校、高等学校同窓会入会式実施 記念品進呈
小学校、高等学校卒業式参列

その他 役員会実施 名簿管理 ホームページ更新

第2号議案 2024年度決算報告

(2024年4月～2025年3月)

前年度繰越金	10,243,368	10,243,368
収入の部	予算	実行
既卒業生終身会費	30,000	0
終身会費	2,340,000	2,490,000
銀行利息	1,500	4,185
ひざし作成援助金(教育後援会より)	20,000	20,000
雑収入	15,000	42,778
小計	2,406,500	2,556,963

支出の部	予算	実行
総会案内作成・発送費用	400,000	233,730
総会費用	10,000	10,413
会報作成・発送費用	100,000	84,272
印刷代	50,000	5,862
入会関連	150,000	83,660
慶弔費	30,000	0
事務費	300,000	124,932
会議費	30,000	20,000
通信費	60,000	48,834
ヨゼフ祭費用	50,000	5,538
チャイルドケア費用	5,000	308
成人を祝う会プレゼント費用	50,000	22,680
学園関連費	250,000	223,300
クリスマスプレゼント費用	120,000	120,000
雑費（振込手数料含）	10,000	15,149
行事保険料	15,000	14,160
小計	1,630,000	1,012,838
年度収支	776,500	1,544,125
予備費	3,000,000	52,140
次年度繰越金	8,019,868	11,735,353

第5号議案 2025年度予算

(2025年4月～2026年3月)

前年度繰越金	11,735,353
収入の部	予算
既卒業生終身会費	30,000
終身会費	2,400,000
銀行利息	4,000
ひざし作成援助金(教育後援会より)	20,000
雑収入	15,000
小計	2,469,000

支出の部	予算
総会案内作成・発送費用	400,000
総会費用	15,000
会報作成・発送費用	100,000
印刷代	10,000
入会関連	100,000
慶弔費	30,000
事務費	300,000
会議費	30,000
通信費	60,000
ヨゼフ祭費用	50,000
チャイルドケア費用	5,000
成人を祝う会プレゼント費用	50,000
学園関連費	250,000
クリスマスプレゼント費用	120,000
雑費（振込手数料含）	20,000
行事保険料	15,000
小計	1,555,000
年度収支	914,000
75周年記念賛助費積立金	3,000,000
予備費	1,000,000
次年度繰越金	8,649,353

【お願い】『ひざし』郵送について

ひざしはWeb版となり、ホームページよりご覧いただけるようになりました。ただし、紙からWebへ移行するにあたり、ホームページからご覧いただけない方、郵送を申し込まれた方のみ、紙媒体でお送りしてきました。

しかし、郵送料金値上げに伴う経費削減のため、今後、郵送数を減らしていきたいと考えております。なるべく次号からはWeb版をご覧いただけるよう何卒ご理解お願い申し上げます。

なお、ホームページでの閲覧がご無理な方は今後も郵送致しますので、メール、FAX、QRコードにて同窓会までご連絡下さい。

メール joseph@stjdodosokai.com

FAX 045-581-8818



<聖ヨゼフ学園教育後援会からのお願い>

同窓会の皆様、そして賛助会員の皆様 ごきげんよう。

毎年、「ひざし」紙面をお借りできることに深く感謝申し上げます。

教育後援会の活動は、学園の経済的援助を柱としております。どのようなときも変わることなく学園のお役に立てる会であり続けるよう努力してまいります。

今後も学園と学園に通う児童・生徒の皆様にとって有意義な会として働く覚悟でございます。今まで同様会員の皆様にはご支援・ご協力を頂きたく心よりお願い申し上げます。

皆様にご入金をお願い申し上げます。

賛助会員は、1口5,000円、2口以上のお振込みをお願い致します。

郵便振替：00280-7-48820

名称：聖ヨゼフ学園 教育後援会

お問い合わせ

〒230-0016 横浜市鶴見区東寺尾北台11-1 聖ヨゼフ学園内 教育後援会室
(TEL&FAX) 045-585-3175

教育後援会 会長 宮永 由巳



退職教職員

○小学校○

永井 仁
大矢皓一郎
下上 栞
小塚 美穂
関口 梨々香
河島 薫
石井 忍
高崎 加奈
杉浦 博子

○中・高○

吉田 武蔵
宮國 杏葉
井上 堯
上村 孝之
木村 絢菜
白石 麻莉愛
関根 茂
安藤 七海
ジョン リンビル
小林 文
内田 和範
平松 佳子

ヨゼフ祭のお知らせ

9月27日(土)、28日(日)『同窓会の部屋』として参加いたします。

卒業アルバムや学園誌などご覧になりながら懐かしいひと時をお過ごしになりませんか？

ささやかなお茶菓子をご用意してお待ちしております♪



昨年の様子
多くの方に来ていただきました

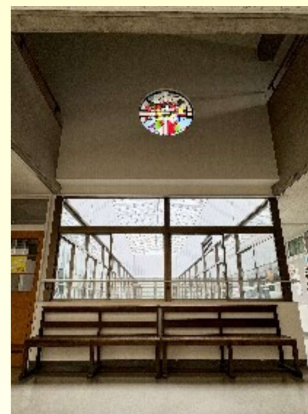


母校に遊びにいらっしゃいませんか

◇9月27日(土)28日(日) ヨゼフ祭

◇11月7日(金) 追悼ミサ
帰天された教職員や同窓生の為に
皆でお祈り致します(勝野講堂)

◇1月初旬 勝野神父様追悼ミサ



同窓会より



～学年幹事様へお知らせ～

ごきげんよう。同窓会より学年幹事の皆様へお願いです。総会や行事関係などのお知らせは各学年幹事様よりお伝えいただきますようご協力をお願いいたします。IT化により総会のご回答はホームページよりご返答いただけるようになりました。LINEやSNSにより繋がっていらっしゃる学年もあるかと存じますので、同窓会ホームページを是非ご周知いただけますようお願いいたします。

<https://www.stjdosoikai.com>

～同窓会へのご寄付のお願い～

聖ヨゼフ学園は一昨年70周年を迎え75周年に向けて準備しております。70周年には同窓会よりご寄付として小学校の図書室に憩いのスペース、学年カラーのカラーテント、小原館のブラインドを寄贈しました。75周年にも記念となるご寄付をご用意したいと思いますので是非お心で結構ですのご支援をよろしくお願いいたします。

【寄付概要】一口の額:一口2千円、一口以上（一口に満たない額につきましても有り難く承ります）

【申込・払込方法】

銀行振込:株式会社みずほ銀行 鶴見駅前支店
(普) 0425768

名義人:聖ヨゼフ学園同窓会
お振込み名義人にはお名前と回生をお願いいたします。

【募金状況報告について】同窓会HP また同窓会誌面において。

【寄付者の顕彰について】

同窓会誌ひざしの芳名録に全寄付者のご芳名を掲載いたします。

匿名をご希望の方は同窓会のHPのお問い合わせ、もしくは同窓会のメールアドレスへご連絡ください。

joseph@stjdosoikai.com

※領収書発行希望の方は同窓会へ直接メールにてお申し出してください。

2025年度 同窓会役員

名誉会長	中学高等学校校長 多田信哉先生	会計	瓜生あずさ (25)
	小学校校長 清水勝幸先生	書記	赤井 宝 (53)
担当顧問	中学高等学校教頭 武田けい子先生	学年幹事	山野辺和美 (25)
	小学校教頭 板倉靖先生	ひざし	兼高 絹代 (27)
会長	袋 尚子 (18)		上山 あゆみ (53)
副会長	深瀬喜永 (13) 会計兼務	ホームページ	小田原裕子 (37)
	田中敦子 (18) 名簿兼務	会計監査	吉田 泉子 (16)
			上堂園貴子 (22)



～編集後記～

会報作成を役員手作りにして5年目、第29号の発行となりました。29号はいかがでしたでしょうか？

同窓会役員の高島友香(24)さんが、2025年2月20日ご病気の為急逝されました。同窓生のご主人様とお嬢様とご家族愛を感じるお話を何う事や、明るい笑顔にもうお会い出来ないと思うと悲しみに暮れるばかりです。今年度から53回生2名が加わり、きっと高島さんも天国からいつもの素敵な笑顔で見守ってくださっていると思います。悲しいこと、辛いことありますが、笑顔を忘れず前向きに進んでいく同窓会にぜひ応援の声をお願いいたします。

会報：ひざし29号(Web版4号) 2025年夏
編集：同窓会役員一同

発行：聖ヨゼフ学園同窓会
〒230-0016 横浜市鶴見区東寺尾北台11-1
Tel/Fax 045-581-8818
E-mail:joseph@stjdosoikai.com